

令和元年度光海中学校「特色ある学校づくり対策事業」実践報告



学校名：佐世保市立光海中学校
所在地：〒857-0062
佐世保市金比良町1-15
校長名：前田 和子
生徒数：57名
学級数：4学級

1 本校の特色ある学校づくりの目的～国際社会にはばたく光海っ子を育てる～

一昨年度から小中一貫型金比良小学校・光海中学校として始動し、その教育効果を高めるために小学6年生の教室を本校にも設置し、小学校への乗り入れ授業も多く展開し、交流を深めた。また、校区には、米軍基地、キングスクールと隣接するといった佐世保の国際色を感じる学校である。生徒は、小集団ながら学習や部活動に熱心に取り組み、文化面、運動面において諸大会で好成績を収めている。地域は、金比羅神社を中心に歴史が深く、伝統のある地域行事が盛んである。特に、地域の方々は、子どもを地域の力で育てようという意識が高く、子どもを中心に据えた行事に熱心に取り組んでおられる。この地域の特長を生かし、地域そして佐世保の自然や文化に触れさせ、研究テーマ「話す力の育成」事業推進のため、郷土を愛する心を育て、思考力、表現力、コミュニケーション能力を身につけさせるために、次の目標を設定した。

(1) 学力向上プラン～話す力の育成・自分を語る力を通して

- ・「英語力向上」国際理解講演会、修学旅行留学生との交流
イングリッシュキャンプ、米軍基地交流
- ・「本物にふれる」市議会傍聴、租税教室、お魚教室
- ・「活かせる仲間集団づくり」iチェック
- ・「話す力の育成」～授業改善 ・「夢を語ろうイン光海」

(2) 光海中魂向上プラン～ふるさとを愛し、誇りに思う 子どもたちを育てる～

ふるさと 地域に学ぶ「先輩に学ぶ」

地域行事への参加～金比羅神社、公民館祭り、鬼火焚き
玉入れ選手権大会、餅つき大会

いのち 平和学習（日浦氏）、いのちの座談会（3年道徳）
人権学習

生き方 職場体験

からだ ヨガ講習会、食育、DV防止、薬物乱用防止教室



校訓「光海魂」の碑

○やればできるという	自信
○やるぞという	意気
○やりぬくという強い	意志

(3) 小中連携向上プラン～小学校、地域とのつながりを育てる～

小学校との交流 小5、小6との交流、合同行事、合同運動会、避難訓練、縦割り遊び、交流給食

あいさつ運動と花いっぱい運動 立ち止まりあいさつの推進、一人一プランター花づくり

地域行事への参加 金比羅神社、児童センターまつり、餅つき大会

2 実践内容

(1) 学力向上プラン

○ 米軍基地内の学校との交流学习

英語運用能力の向上と国際理解教育の一環として、日本の伝統文化を伝えたり、身体を使ったゲームやグループでクイズに答えたりしながら、本校の生徒は英語を使用し、米軍基地内の学校の生徒は日本語を使用しての学習会で、それぞれが学んでいる外国語の運用能力向上の一助となった。



交流の様子（米軍基地内）

○ 修学旅行留学生との交流

京都、大阪、福岡の史跡等を巡る修学旅行を実施した。京都の歴史建造物から日本の優れた伝統文化を感じるとともに、留学生との交流も図り、班別行動で一緒に行動した。さらに、福岡の太刀洗平和記念館では、特別攻撃隊の遺品から戦争の悲惨さと愚かさを改めて心に刻み、体験学習から学んだことを模造紙にまとめ、文化発表会で展示発表を行った。

○ 国際理解教育講演会

県立大学の山崎 祐一 教授の異文化理解に関する講演会を開催した。本年度は、他国の英語教育についての話をしていただいた。大学のすばらしい施設での授業体験は、今後の進路を考える動機付けにもなっており、キャリア教育充実の一助にもなっている。



県立大学での授業

○ 「話す力」の育成

世代の違う家族や地域の人との交流を通じて自分の思いを語り、人とのつながる力を育む態度を養うため、「夢を語ろうイン光海」を実施した。保護者の感想に「いつのまにか、大人に近づいている子どもたちに驚きました」とびっくりされていました。

（諸事情のため、保護者、生徒の参加のみで実施しました）

また、1年生が地域の方々と語り合う「地域の先輩に学ぶ」を実施、地域の良さや昔遊び等質問をしました。



夢を語ろうイン光海

(2) 光海中魂向上プラン

○ 「ふるさと学習」

弓張岳砲台跡、展望台第43号潜水艦殉難の碑親鸞上人史跡を巡った。生徒は、郷土に残る戦跡に触れ、戦争の悲惨さを感じ取り、戦争を二度と起こしてはならない決意を新たにしました。また見聞したことを模造紙にまとめ、文化発表会で展示発表を行った。



親鸞上人の碑を見学する生徒

○ 「いのちの座談会」～赤ちゃんとのふれあい～

子育てを終わらせた方や、子育て中の方をお呼びして、3年生の生徒と地域の方々との交流を行い、赤ちゃんとのふれあった。生徒の感想には、「肌との触れ合いができてよかった」等書いてあった。



いのちの座談会

○ 平和学習

6.29平和集会では、西地区自治協会会長 日浦 照義氏をお招きし、佐世保空襲時の佐世保の様子や空襲の体験談をお話していただいた。郷土佐世保にも、多くの戦争の傷跡があることを知った生徒は、驚きを隠せない様子であり、改めて戦争がいかに悲惨であることを心に刻んでいた。



空襲について語る日浦氏

○「生き方」～職場体験学習の実施～

校区内や地域に隣接する保育園スポーツ店、飲食店、スーパーマーケット、森きららなど17事業所で実際に仕事を体験する職場体験学習を行った。小規模校の特性を生かし、1事業所1～2名で体験学習を行い、生徒は任された仕事をやり遂げる責任の重さや勤労の大変さを知ることができた。体験学習の内容は、生徒が文化発表会において劇形式で発表し、表現力を高めた。

<職場体験学習のようす>



TSUTAYA（五番街）



海きらら



進徳保育園

○「からだ」

本年度は、日頃の授業で学ぶ内容の有用性を生徒に感じ取らせるために、様々な体験活動や多様な人との出会いの場を設定した。

ヨガ講習会を2年連続で実施した。講師は、森岡やよい先生をお招きして60分行った。ヨガは、姿勢をよくする、呼吸を整えて精神を安定させる、集中力を高める等たくさんの効果がある。



ヨガ講習会

(3) 小中連携向上プラン

2年前から金比良小学校の6年生が本校舎に学びの場を移して、中学校数学科教員を小学校6年生のチームティーチングとして活用した。その他、中学校英語科教員と5、6年生担任とのチームティーチングや中学校社会科、技術科、音楽科、保健体育等教員による乗り入れ授業を多数行った。また、行事においても小中連携強化を図り、人権集会や文化発表会に小学6年生を参加させるとともに、通常の昼休みにはグラウンドでの異学年交流活動も取り入れた。特に、文化発表会では小学3・4・5・6年生も出し物を披露する等、特色ある取組を実践できた。



中学校保健体育教員による小学3年生の授業



中学校の文化発表会で劇を披露する小学4年生



小中交流（鬼ごっこ）をする児童と生徒



中学校音楽科教員と小学校6年生担任による授業の授業



地震・津波被害を想定した小学校中学校合同避難訓練

あいさつ運動は、「一日一笑あいさつ∞（無限大）」のスローガンのもと、生徒会役員が中心となり、一校一徳運動として取り組んでいる。本年度始動した小中一貫型学校の特色を生かし、小学6年生も生徒会専門委員会の委員として活動を行うようにし、毎朝元気のよい挨拶の声が響く学校づくりになっている。今年度は、小学校の校門前でも中学生による挨拶運動を実施した。

花いっぱい運動は本校の伝統的な特色ある学校づくりの取組となっている。生徒一人一人がプランターに花を植え、責任をもって苗の世話をし、美しい花を咲かせる活動に取り組んでいる。

また、校内に多くの花が咲き、潤いのある校内環境をつくりあげることができている。特に、後期の取組では、3年生の卒業を祝うために、色鮮やかな花が咲いたプランターを卒業式の会場に飾っている。



あいさつ運動（中学校校門付近）

一人一つプランター花づくり

あいさつ運動（小学校校門付近）

地域の方から地域の歴史を学び、郷土の歴史や文化に対する理解や郷土に対する誇りと愛情を育て、地域の方々とつながることを目的とし、地域の方々4～5名の方たちと地域の産業、学校の歴史、米軍基地との関係等ワークショップ形式でテーマごとに質問を行う。

3 成果

○ 学校評価（令和元年度）

- | | | |
|-------------------------------|----|-------------------------------|
| ・ 外部の人材、地域の教材などを活用した教育活動が行われる | 職員 | 3. 5 (R1) ← 2. 9 (H31) (+0.6) |
| | 全体 | 3. 4 (R1) ← 3. 1 (H31) (+0.3) |
| ・ 学校の教育内容や生徒の様子が十分伝わっている | 地域 | 3. 8 (R1) ← 3. 1 (H31) (+0.7) |
| ・ 学校行事や生徒会行事は十分効果をあげている | 全体 | 3. 5 (R1) ← 3. 3 (H31) (+0.2) |

○ 地域の声から

- ・ 今は、スマホやパソコンでコミュニケーション能力の低下が言われています。「夢を語ろう」の取組を行うことで目を合わせて話す大切さ等に気づき話す力が上がってくれば嬉しいと思いました。
- ・ 話をしたこともない子どもたちの夢が聞け、今の子どもたちは自分の夢やなりたいことがハッキリしていてすごいと思いました。

○ 課題

- ・ 生徒—「学習、学校行事、学校生活、部活動への意欲の向上」
- ・ 家庭—「家庭でのメディア利用のルール、自立に向けた生活習慣の確立」
- ・ 学校—「学力向上に向けて一話す力の育成～自分を語る～授業の実践、生徒の主体的対話的な深い学びの実践」
- ・ 保護者—「メディアのルールを中心とする生活習慣の見直し」
- ・ 地域—「地域、保護者、学校の連携による理解と協力」

4 今後の課題

学力向上及び地域連携・小中連携を目指した取り組みであった。学力向上に向けて校内研修の取組「話す力の育成」と連動した。自分を語る活動の中で、思考判断が伴って学びを深めることを教師には求めた。教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学習に向かう姿勢と学びの意欲が増している。特に、英語科授業や地域人材を活用した「話す」取組の成果が少しずつ見えてきた。具体をもって取り組む教師の意欲も見える。何よりも学びを楽しむ子どもたちの姿が見えた。

今年度は、本校が取り組む小中一貫教育の推進及び地域とともにある学校になるための特色ある取り組みに力を入れてきた。ポイントは、「本物にふれる」「ふるさと学習」「話す力」である。

そこでは、地域に人材・教材を求め、地域の方との距離を縮めた。さらに、小学校と中学校の距離感も縮めている。地域の方の温かい励ましの声が増え、地域の元気な声が聞こえてくる成果を感じ始めた。学校評価がこれらを表している。また、感想欄に書かれた地域や保護者の声を読んだときに、さらに特色ある学校づくりを目指し、学力向上の期待に応えなければならないと感じる。